

vol.

95

<Airheads通信> 自宅にまで職場を拡張するハイブリッドワークプレイスを実現する「Aruba ESP」って何？

テレワーク環境を多くの企業が取り入れるなか、その環境として求められるハイブリッドワークプレイス実現に向け、Aruba ESPと呼ばれるプラットフォームが活躍する。そんなAruba ESPを大輔が分かりやすく解説！Aruba ESPが持つ“第六感”、大輔も優れたものを持っているようで…。

<サマリー>

「ハイブリッドワークプレイス実現に向けたAruba ESP

- ・ オフィス環境を自宅まで拡張、ニューノーマルに必要な「ハイブリッドワークプレイス」
- ・ ハイブリッドワークプレイスを支えるコンセプト「Aruba ESP」
- ・ Aruba ESPを構成する3つの階層
 - ・ 「AIOps」AIを活用したオペレーション（Ops）の自動化
 - ・ 「ゼロトラスト・セキュリティ」ネットワーク接続の全ユーザーとデバイスを認証・制御
 - ・ 「ユニファイドインフラストラクチャ」Aruba Centralを中心としたインフラ



この記事のPDFをダウンロード

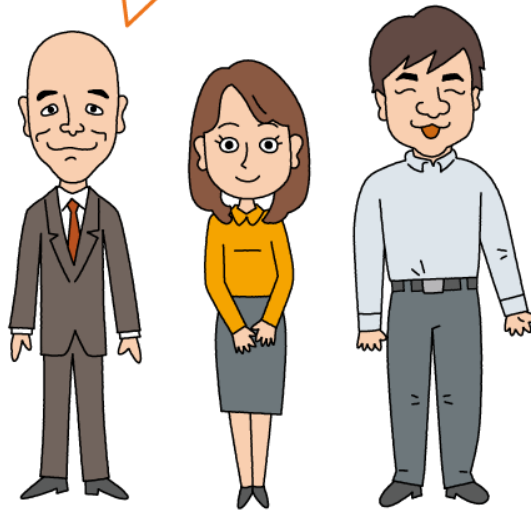
Airheads通信をご愛読の皆様、
いつもありがとうございます。
ダイスケのモデルとなっております天野です。

突然のご連絡とはなりますが、今号を持ちましてAirheads通信は一度区切りとさせていただきます。初刊発行からすでに5年近くが経ち、皆様や私の置かれている環境、そしてIT業界のトレンドも大きく変わってきました。最後のメッセージとして新たなアルバの方向性を示すESP(Edge Service Platform)のご紹介をさせて頂けたのが象徴的ではないかと思えます。

本プラットフォームにより、皆様の課題を解決し新しい世界を創造していけると確信しております。今後は世の中の変化に伴い我々も情報提供のやり方を変えていきます。新しい発信を楽しみにお待ちしております。

あ、そういえばダイスケは転職するみたいですが
私は引き続きアルバでバリバリやっていきます。
これまでと変わらずのお付き合いのほど、よろしくお願いします！

長い間のご愛読、
誠にありがとうございました！



大輔（だいすけ）

A市役所のIT推進室から転職して、現在は世界的なお菓子メーカーであるD&W社の情報子会社に転職。ネットワーク統括部のメンバーとしてグローバルなIT基盤の運用管理を担う。実際にはITの知識があまりなくいつも周囲に頼ってばかりいる。



美咲（みさき）

大輔と同じくA市役所職員から転職した、もと大輔の部下。大輔が所属する情報子会社の親会社にあたる、グローバル本社のD&W社システム企画部に所属。社会人歴はわずか3年ほどだが、平成生まれのデジタルネイティブ世代として、ITの知識は豊富。

引き続き、Web越しに自宅で会話をする美咲



前はAPを使った接触者追跡システム「Aruba Contact Tracing」に関する話題でしたが、そもそもこの仕組みを含めたAruba ESP（Aruba Edge Service Platform）についてなんですけど。



前回僕が勉強してくるっていったやつね。さわりだけかじってきたから大丈夫！



さわりだけって…まあいったん大輔さんの説明を聞きましょう。



そもそもAruba ESPはプラットフォームとしての概念であり、ハイブリッドワークプレイスもその中に含まれているんだよね。



以前も説明ありましたね、ハイブリッドワークプレイス。



そう。今は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が再び猛威を振るい始めているけど、オフィスに出勤するにしろ自宅で作業するにしろ、安全な環境でのリモート接続が必要だし、接触者が追跡できる環境はしばらく必要でしょ。



おっしゃる通りですね。ようやく出勤できるかと思っていましたが、また感染者が増えつつある今は、出勤は控えないといけないでしょうし。



そんなオフィスはもちろん、自宅も含めたりリモート環境を働く場所、いわゆるワークプレイスとしてとらえた考え方がハイブリッドワークプレイスというもの。オフィスでないといけない、なんてことは、ニューノーマルな時代においては考えられないよね。



おっしゃる通りですね。わざわざ承認の押印するためだけに出勤なんて、もう辞めたいですもん。



まあ業務フローやアプリケーションはもちろんそうだけど、そんな環境づくりをインフラにも適用していく必要があるわけさ。それを可能にするのが、Aruba ESPってわけ。



分かりやすいですね。整備すべき環境はハイブリッドワークプレイスで、それを実現するための手段がAruba ESPだと。

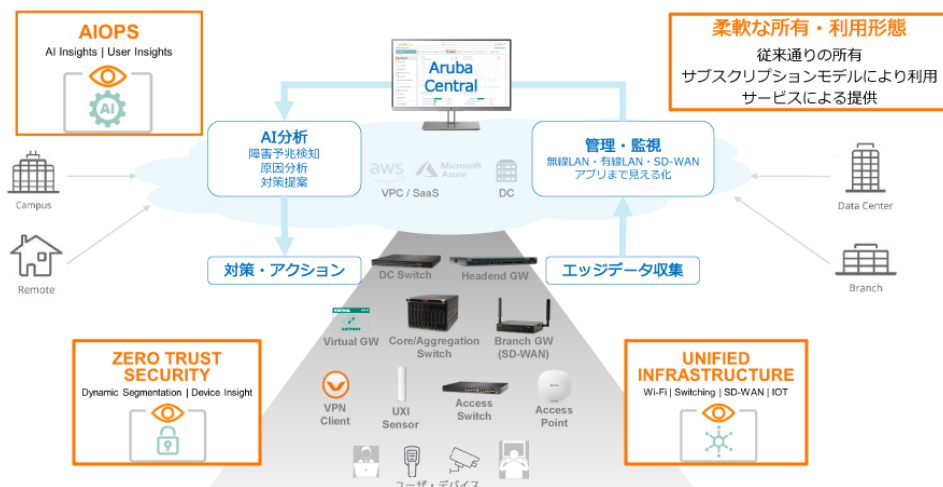


そういうこと。



その手段としてのAruba ESPは、前回も紹介した「AIOps」「ゼロトラスト・セキュリティ」「ユニファイドインフラストラクチャ」という3つの階層で構成されたアーキテクチというわけね。

Aruba ESP: AIと自動化でネットワークエッジを変革





理解が早いね。で、そのあとの解説はディーンに…



さっきディーンはオフラインになっちゃいましたよ。



ああ、そうか。じゃあ、概念的なところで。シンプルなところから言えば、「ユニファイドインフラストラクチャ」はAruba Centralを中心に、各種LANから無線LAN、SD-WAN、リモートアクセス、さらにはIoTも含めた運用管理の一元化が可能なインフラのことだね。



Arubaが提供するソリューション群そのものってことね。



おっしゃる通り。「ゼロトラスト・セキュリティ」は、役割に紐づいたロールベースのアクセス制御やダイナミック・セグメンテーションなどを通じて、ネットワークに接続するすべてのユーザーとデバイスを認証し、制御していくわけ。



ロールだけでなくコンテキスト情報も含めたうえで認証できるようになると。変な時間に海外サイトにアップロードしているなんて挙動は、たとえ認証された人であっても怪しいですもんね。



怖いよね。自分が特別なことしてるわけじゃないけど、認証できなったら怖いもんなあ。で、AIOpsだけど。



AIを活用したオペレーション (Ops) の自動化、という印象ですね。



資料を読むと…なにになに？「AI Insight」や「AI Search」「AI Assist」などができるって書いてある。



AI Insightは異常を自動検出した後の対策提案や異常の予兆検知も行ってくれます。他のネットワークと比較しながらおすすめも教えてくれるみたいですね。AI Searchは自然言語によるデータ検索、AI Assistは障害発生時のログ収集の自動化やトラブルチケットの自動生成も行ってくれるみたいですよ。

Aruba の AIOPs で何ができるのか



AI Insight

異常の自動検出
対策の提案
他ネットワークとの比較による最適化



AI Search

自然言語による
データ検索



AI Assist

障害検知時に
自動ログ収集自動
トラブルチケット生成



う、今説明しようとしたのに。



先回りしてしまいました。いずれにせよ、AIや自動化を駆使して、ネットワークエッジを変革することが可能なプラットフォームとして注目されていますね。



なんかAIのことを第六感と表現しているみたいよ、Arubaのキルティさんは。



なんとなくわかるかも。長年の経験があることで、ひらめきが生まれて、それが気づきとしての第六感につながる感じなんじゃない？



俺も欲しいなー、第六感。



大輔さんは極めて優秀な第六感を持っていますよ。部長から仕事が振られそうになるとふいにいなくなる、あの察知能力ってすごいですよ…



そういえば、ちょっと報告があつて。



どうしたんです、あらたまって。



実はさ、転職することになったんだ。



え！？そうなんですか？



いろいろお世話になっているお菓子メーカーの人からお誘いを受けただよね。



...



まあ同じ業界だし、引き続きITの世界にはいるんだけどね。待遇もよさそうだし、2020年もそろそろ終わりだし、いい機会だなんて。



そうですか、まあ引き留めるのもなんですけど。



相変わらずITの知識は乏しいけど、お菓子の世界は狭いので、またいろいろ相談に乗ってよ。



2015年にスタートした当時はお互い市役所勤めでしたね。変なご縁で一緒に今の会社に転職して活動してきましたが、ここでようやく小休止というところですね。



美咲くんには本当にお世話になったね。またこれからもよろしく頼むよ。



いえいえ、こちらこそ引き続きよろしくお願いしますね。



ちなみに、2021年はどんな年になるのかな。



まあ未来はわかりませんが、今以上に無線が欠かせないものになっているはずですよ。無線LANはもちろんですが、5Gも広範囲に利用できるようになっていくことでしょうかね。

誰でもネットワーク管理ができる時代へ、 「はじめてみようAruba Central」 ～90日間トライアルライセンス配布中～

802.11ax対応の最新アクセスポイントから従来モデルまで、
対象ネットワーク製品をお持ちであればどなたでも！

http://bit.ly/ArubaCentral_Trial_SIGNUPNOW

バックナンバー

▼ vol.1 - vol.49

▼ vol.50 - vol.94

バックナンバーは、下記サイトにて公開しております。

<https://www.hpe.com/jp/ja/networking/mailmagazine.html>

※最新版が掲載されていない場合もありますが、随時掲載して参りますので後日ご確認ください。